

平成30年度 県内大学生が創る奈良の未来事業審査委員会

議事概要

1 日 時 平成30年8月31日（金） 13:00～16:30

2 場 所 奈良県議会棟 本会議場及び第2委員会室

3 出席者

荒井正吾委員長、栗山道義副委員長、今川敦史委員、川端章代委員、高本恭子委員、永田正利委員、久隆浩委員

・県内大学生が創る奈良の未来事業審査委員会規則第5条の2の規定により、会議の開催が成立したものとする。

（第5条の2 委員会は、委員（委員長を含む。）の過半数の出席がなければ、会議を開き、議決をすることができない。）

4 公開・非公開の別

・プレゼンテーション及び質疑応答 公開（傍聴者 62人）

・審査及び選考 非公開

非公開理由：県内大学生が創る奈良の未来事業審査委員会運営要領第3条の規定による

（第3条 委員会は原則公開とする。ただし、審査及び選考については、奈良県情報公開条例（平成13年3月奈良県条例第38号）第7条第2号に該当する情報について審議等を行うため、非公開とする。）

5 概 要

<開会>

○知事挨拶

・県内大学生が創る奈良の未来事業では、県内大学生に事業構想のコンペをしていたのだが、この趣旨は、事業構想をして、プレゼンテーションをすることはどのような社会でも必ずあることで、今後のグローバル社会での基本的な作業を大学生の時期にさせていただくことが大きな目標である。

・本事業では、公開コンペで選ばれた最優秀賞、優秀賞は予算をつけて事業化するプロセスもある。

・今年はどうのような面白いアイデアが出てくるのか楽しみにしているので、学生の皆様には頑張ってください。

・審査委員の皆様をはじめ、本事業の実施にご協力をいただいている県内大学関係者の皆様に感謝を申し上げ、冒頭の挨拶とさせていただきます。

<プレゼンテーション及び質疑応答>

○県内大学生が創る奈良の未来事業審査委員会運営要領第2条の規定により、県内大学生が創る奈良の未来事業に応募した県内の大学等に在籍する学生（以下「県

内大学生」という。)によるプレゼンテーション及び委員による質疑に対する県内大学生からの応答を行った。

(1) 政策提案1

政策提案の名称：「2020奈良健康プロジェクト」

提案者の在籍する大学等の名称：天理大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

体育学部 体育学科 3年 加美山 裕紀

○資料に基づき、県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑（久委員）：

- ・提案書ではイベントについて記載されているが、今日のプレゼンでは生活動線の中で無理なく運動するという提案に変わっている。どちらをベースに事業をしようと考えているのか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・今の段階では、生活動線の中のゴミ出しや病院の待合室で待っている時間内に行うイベントを考えている。

質疑（久委員）：

- ・政策提案書を提出後、時間があつたので内容が変わってきたということではないか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・そのとおり。

(2) 政策提案2

政策提案の名称：

「交換留学 ならと奈良

～次世代に繋がる、北部・南部の小学生の交流と魅力発信～」

提案者の在籍する大学等の名称：奈良教育大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

教育学部教科教育専攻数学教育専修中等教育履修分野

1回生 尾崎 優真

○資料に基づき、県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑（川端委員）：

- ・昨今はボランティア教育も子どもたちにとって大事と言われているが、本政策提案にはそういったことも含まれているのか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・例えば、北部地域に南部地域の小学生が来たときの活動として、北部の魅力のテーマが「歴史」「伝統文化」としていることから、燈花会のボランティアを小学生と一緒にすることを考えている。

○質疑（栗山委員）：

- ・北部と南部の小学生が交換留学してそれぞれの地域の魅力を発見して、発信力を高めるという内容は面白いが、川端委員の質問と重複するが、ボランティア参加するとか、人とのつながり、人の動きといったものも提案に含めたら良いと思う。南部の自然といえば、例えばどういうものが考えられるか。

応答（県内大学生グループ）

- ・南部では、住宅地が多い北部にはあまりない綺麗な川や温泉が有名なので、そういった所を中心に取り入れた活動をしたいと考えている。また、人々との交流についてご意見があったが、地元の小学生と交流するだけでなく、地元の住民とも交流する時間をつくれたらと考えている。

○質疑（今川委員）：

- ・資料に（事業に参加する）小学生が、中学生、大学生に成長する過程が記載されているが、参加者は登録制になるということか。それとも、その都度、募集するのか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・その都度、募集することを考えているが、小学生の時に参加された方に、もう一度、個人的に声をかける方法も考えている。

○質疑（栗山副委員長）

- ・このグループの中で南部出身の方はいるか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・全員、北部出身。

○意見（高本委員）：

- ・小学校5、6年生を対象とする政策提案だが、実際、南部地域には小学校5、6年生がいない小学校もあるので、もう少し幅広に3年生ぐらいから参加できるような内容でお願いしたい。

応答（県内大学生グループ）

- ・南部地域の小学生については、自治体に協力いただいて実際の人数等を確認して、学年の幅をもたせたいと思う。

（3）政策提案3

政策提案の名称：「奈良土産新ブランド化プロジェクト事業」

提案者の在籍する大学等の名称：奈良県立大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

地域創造学部 地域創造学科 2年 案済 匡史

○資料に基づき、県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑（久委員）：

- ・2点確認したい。提案書ではパッケージデザインの話だったが、今日のプレゼンテーションではロゴデザインの話になっていた。これは、パッケージデザインも含めて提案されているのか。もう一点、観光分野ではマーケティング調査が1番重要だと思うが、提案書でもプレゼンテーションでも、具体的にわからなかった。どのようなターゲット層に、どのような調査をされるのか、もう少し具体的に教えていただきたい。

応答（県内大学生グループ）：

- ・1点目の質問については、ロゴ、パッケージ、すべてのデザインを作りたいと考えている。2点目の質問については、外国人と日本人、どちらを対象にした土産作りが良いのかも踏まえてマーケティング調査をしたいと考えている。

○質疑（久委員）：

- ・もう少し具体的に教えていただきたい。例えば、アンケートをすとか、ヒアリングをすとか。あるいは、どのような場所で、どのような方々を対象に調査するののか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・まず、誰がマーケティング調査を行うのかという点は、基本的には私たち大学生が活動していきたいと思っている。場所等は、（プロジェクトが）立ち上がってから相談して決めていきたい。マーケティング調査は非常に重要性があると考えているため、マーケティング調査に重きを置いて行ってきたい。

○質疑（久委員）：

- ・今回は全体のスキームを提案されたということで、詳細は今後詰めていくという理解でよいか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・そのとおり。

（4）政策提案4

政策提案の名称：

「奈良・スタディサイクリング—自転車を用いた体験学習型地域振興—」

提案者の在籍する大学等の名称：奈良県立大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

地域創造学部 地域創造学科 2年 天野 光生

○資料に基づき、県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑（川端委員）：

- ・達成目標に、「住民の主体性を育成」と記載があるが、「住民の主体性を育成」とは具体的にどのようなイメージか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・地域創造的なイベントを行うには、行政が「こういったことをやります」と言ってトップダウンで行っても、まず成功しない。短期間で終わったり、非常に悲しい結末になってしまうことから、地域の住民に、行政と一緒に地域の良さを発掘して、一緒に考えていくブームを創ることで、イベントは成功すると考えており、そういった部分で住民の主体性を育成することを考えている。

○質疑（川端委員）

- ・働きかけをされるということか。

応答（県内大学生グループ）

- ・そのとおり。

○質疑（久委員）：

- ・平成32年度以降の事業の継続性はどのように考えているか。

応答（県内大学生グループ）

- ・県立大学のフィールドワークの単位を活用することや、教育大学等、子どもの教育に関心のある方も多いと思うので、そういった方々を募集して養成し、次世代を育てていきたいと考えている。

○意見（久委員）：

- ・先ほど、川端委員から、どのように地元の方々の主体性を育成するかという話があったが、既に地域の中で自転車をされている方とか、この行事に賛同される方に参画いただいて、平成32年度以降は地元の方に自由に企画運営をお任せする方法もあると思うが、そのあたりはいかがか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・住民に参加いただくことはとても大事なことと思うが、住民にすべてを委譲するのではなく、私たち、大学生が参加することが、奈良の奥大和を知るという部分でとても大切だと思っている。そのため、北部地域の大学生等にずっと参加していきたく感じていただけるようなイベントにしたいと考えている。

(5) 政策提案5

政策提案の名称：「これが僕らのまち図鑑」

提案者の在籍する大学等の名称：畿央大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

健康科学部 人間環境デザイン学科 3年 阿草 憲蔵

○資料に基づき、県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑（栗山委員）：

- ・シビックプライドの見える化はとても面白いし、大事なことと思う。私でも意外と自分のまちを知らないことを痛感する。そういう意味では、小学生の豊かな発想をもとにまち図鑑の作成をすることで、地域の住民も参加していくことはとても大事だと思う。実際に広陵町で実施したとき、どういった方が参加されていたか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・今回初めて行ったということもあって、区長に紹介いただき、地元の高齢者にヒアリング調査を行った。

○意見（栗山委員）

- ・時間の余裕が出来た方は色々と勉強されている。まずは、そういう方々が小学生と一緒に色々な話をするなど、地元の人たちをどう巻き込んでいくかがポイントになると思う。

○質疑（久委員）

- ・今、全国で展開している「わたしのマチオモイ帖」はご存じか。

応答（県内大学生グループ）

- ・知りません。

○意見（久委員）

- ・クリエイターの方々が始められた取組で、自分たちのまちの特徴や、大好きな所を様々な形で掘り下げてディスプレイするという展示会を全国でしている。その展示会を見ると、例えば、映像で表現されている方もいるし、地図で表現されている方、クイズ形式でされている方もいて、バラエティに富んだ成果物になっているので、「これを作ってください」ではなく、様々な表現形式があって良いのではないかと思うが、そのあたりはいかがか。

応答（県内大学生グループ）

- ・小学生と一緒に作成していくプロジェクトなので、バラエティに富んだ成果物が作れたら良いと思う。

○意見（久委員）

- ・小学生だからこそ様々なことを考えている可能性があるのでは、「こうしてください」というより、小学生のクリエイティブな発想を活かして、大学生がフォローしていくやり方もあって良いかなと思う。

(6) 政策提案6

政策提案の名称：「陶板とQRコードを利用した観光案内板」

提案者の在籍する大学等の名称：奈良大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

文学部 文化財学科 3年 米沢 映里奈

○資料に基づき、県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑（久委員）：

- ・スマートフォンで位置情報の確認が出来るので、地図アプリと連動させて情報を流す方法もある。その方が更新性は高いのではないかなと思うが、いかがか。

応答（県内大学生グループ）

- ・QRコードであれば、コンテンツの拡大が可能だが、地図情報や位置情報では位置や場所がわかるだけで、多言語対応した場合に情報量が多すぎて、見えづらくなる部分もあるかと考える。QRコードの方が見やすいと思う。

○意見（久委員）

- ・もう少しシンプルな方法であればQRコードでも良いと思うが、目的によって方法は変わってくると思うので、アプリですかQRコードですか、違いを整理してプレゼンテーションすれば、より良いアピールができたのではないかなと思う。

○質疑（栗山委員）

- ・大塚美術館の陶板は、かなりのコストがかかっていると聞くが、最近の陶板の技術はコストがあまりかからなくなっているのか。

応答（県内大学生グループ）

- ・コスト面について、大塚美術館の陶板も作っている大塚オーミ陶業に問い合わせたところ、陶板サイズ90×120センチで約300万円と聞いている。大きさは自由に変更でき、その時々で値段は変動するが、1番安い物で150万円からでもできると聞いている。

<審査・選考>

- 「県内大学生が創る奈良の未来事業審査委員会運営要領」第2条の規定により、委員による審査及び選考を実施し、最優秀賞1提案、優秀賞2提案を選考した。

- ・最優秀賞：

政策提案4

政策提案の名称：

「奈良・スタディサイクリング—自転車を用いた体験学習型地域振興—」

提案者の在籍する大学等の名称：奈良県立大学
グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：
地域創造学部 地域創造学科 2年 天野 光生

・優秀賞：

政策提案2

政策提案の名称：

「交換留学 なら to 奈良

～次世代に繋げる、北部・南部の小学生の交流と魅力発信～」

提案者の在籍する大学等の名称：奈良教育大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

教育学部 教科教育専攻 数学教育専修 中等教育履修分野

1回生 尾崎 優真

政策提案5

政策提案の名称：「これが僕らのまち図鑑」

提案者の在籍する大学等の名称：畿央大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

健康科学部 人間環境デザイン学科 3年 阿草 憲蔵

<選考結果発表・表彰>

○荒井委員長より、最優秀賞1提案、優秀賞2提案を発表し、賞状と副賞を授与した。

<審査委員長講評>

○栗山審査副委員長より、講評を行った。

- ・大学生としてプレゼンテーション力をどのように高めて、公開コンペの場で皆さんに納得いただける、わかりやすい発表ができるかどうかも含めて、発想に新しい視点があるか、持続性があるか、具体的に実践できるかという総合的な視点で審査を行った。
- ・入賞された3グループは、いずれも対象が小学生や中学生と一緒に、大学生と地域の住民が新しい取組をするという共通点があった。子どもたちの豊かな発想を活かして、大学生が地域との関わりを持っていくことに大いに期待したい。
- ・今日に至るまでに、どのようなプレゼンテーションをするか勉強してこられたと思うが、今後の大学生生活をさらに充実したものにしていいただき、日常生活の中でも地域の活性化に引き続き取り組んでいただければと思う。

<閉会>